

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
哲学 Philosophy		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択 ()		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
立川 聡子	本館2F	授業時間外		授業中に指示します
授業の概要				
哲学入門である。哲学の歴史的な流れを背景に先人たちの思想を学ぶ。どのような時代にどのような思想が生まれたのか、時代背景をイメージしながら哲学者の思想について解説をおこなう。思想の概論について基礎的な知識を習得した受講者自身の解釈について意見交換する発表の機会がある。				
授業の目標				
①「哲学」とは何か、哲学の定義について、説明できるようにする ②哲学の歴史について基礎的な知識をもち、説明できるようにする ③哲学の歴史上の人物とその思想について基礎的な知識をもち、説明できるようにする				
授業の方法				
講義形式で解説し、教員と受講者間でディスカッションを行う。当日レポート、授業後・授業前レポート、発表を適宜行う。				
学習の成果（学習成果）				
哲学的に物事を考えることができ、先人たちの哲学的思想を自身の人生の糧とすることができる。 社会的な課題に取り組む解決する方法を考える、思いやり、社会への責任感を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス（学習の方法、シラバスの説明、成績評価の説明）、哲学史上の人物たち			
第2回目	哲学とは何か、哲学の定義			
第3回目	古代の哲学① ソクラテス以前の哲学、自然学と哲学、実践的な思考			
第4回目	古代の哲学② ソクラテスとプラトン、プラトンのイデア論、プラトンにおける肉体と魂			
第5回目	古代の哲学③ アリストテレス、アリストテレスとプラトン、アリストテレスの著作			
第6回目	古代の哲学④ ヘレニズムと古代後期、哲学とグノーシス レポート①次回提出・発表			

第7回目	中世とルネサンスの哲学① 中世の哲学、教父神学、
第8回目	中世とルネサンスの哲学② アラビアの哲学、スコラ神学
第9回目	中世とルネサンスの哲学③ ルネサンスの哲学、哲学と錬金術 レポート②次回提出・発表
第10回目	近代の哲学 ルネ・デカルト、合理論、経験論、啓蒙主義、イマヌエル・カント、カントの著作、哲学と超心理学
第11回目	19世紀の哲学 ドイツ観念論、実証主義、解釈学、プラグマティズム、マルクス、フォイエルバッハ、シュティルナー ショーペンハウアー、ニーチェ、キェルケゴール、哲学と精神分析
第12回目	20世紀の哲学 実存哲学、現象学、分析哲学、構造主義とポストモダン
第13回目	哲学者の思想について考える…受講者によるディスカッションをおこなう。 プレゼンテーション資料を作成する
第14回目	哲学を学んで関心をもったテーマでまとめ、プレゼンテーションをおこなう。
第15回目	プレゼンテーションの総評とまとめ

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業に集中している。分からないことは主体的に質問するなど自身で解決している。課題の準備を十分に行い、発表の態度は模範的であり、内容は体系的かつ論理的である。積極的に発言している。
レポート	30%	レポート、プレゼンテーション資料を作成する。S評価：学修の観点を網羅している。論理的に述べている。発表資料は、わかりやすく簡潔にまとめている。自身の言葉で表現している。
調査報告書		
小テスト		
試験	30%	筆記問題 正答90%以上
発表内容（態度含む）	20%	発表に備えて十分に準備している。自ら意欲的に発表に臨んでいる。話す言葉づかいが適切である。話す速度が適切である。声の大きさが適切である。言葉が明瞭でわかりやすい。話が論理的に展開されている。
その他		

教科書と参考図書

適宜、プリント配布。 参考図書：適宜紹介する。

履修上の留意点・ルール

積極的な発言を求めます。